

1 単元名 Unit 5 Living with Robots – For or Against (New Horizon English Course 3)

2 本単元の目標

- (1) これまでに学んだ表現を使って、自分が言いたいことを英文で書いたり発表したりすることができる。 (知識及び技能)
- (2) 与えられたテーマに対して自分の意見や他者の意見を整理し、教科書の本文内容を利用したり応用したりして、まとまりのある文章を書くことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 与えられたテーマに対して、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な文や語句を用いて、話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマについて、関連語彙や文法、フレーズを読んだり英語で表現したりしている。 ・上記で得た語彙や文法表現を、スベルに気をつけて書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットセンテンスとして学んだ新出文法を使ったり本文のモデル文を活用したりして自分の意見を言ったり書いたりしている。 ・3段落構成の文における導入・展開・結論において、それぞれの内容に沿った事実や自分の考えを表現し、まとまりのある文章を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットセンテンスとして学んだ新出文法を使ったり本文のモデル文を活用したりして自分の意見を言ったり書いたりしようとしている。 ・3段落構成の文における導入・展開・結論において、それぞれの内容に沿った事実や自分の考えを表現し、まとまりのある文章を書いたりしようとしとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、与えられたテーマに対して「賛成か反対か」の立場を明確にし、自分の意見を主張する「討論型」の単元となっている。教科書のテーマは「人間がロボットと共存することに賛成か反対か」であるが、テーマを様々に変えて「賛成か反対か、なぜそう思うのか」を個人で考え、グループ内で討論する言語活動を設定したい。そして単元の最後に、自分の意見を「まとまりのある文章（※3段落構成の型を利用する）」で表現する活動を設定する。

※I agree/disagree. I have two reasons. First, _____. Second, _____. So, _____.

(2) 生徒観

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果から、「聞くこと」や「読むこと」よりも、「自分の意見を書くこと」に課題が見られた。そこで各単元終了時には、その単元のテーマについて授業で学んだ新出文法や知識を取り入れ、「まとまりのある文章を書く」活動を行う必要があると考える。

(3) 指導観

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を、人が言語を習得する順番にする。すると「聞く」「話す」は英会話活動、「読む」「書く」は「本文音読」「文法まとめ」「書く活動（音読筆写・単元のテーマについてまとまりのある文章を書く）」という活動になる。そこで授業の始まりは、新出文法を導入した英会話活動から始める。なるべく文字を使わず、イラストで言いたいことを表現することで、英語に苦手意識のある生徒も参加しやすくなる。この英会話活動で関連文法や表現を十分に練習し、気持ちや意見を表現できるようになってから、「読む」「書く」活動を行うことで、書くことへのハードルが低くなるのではないかと考える。

第2次から、「I know what you mean.」を導入したディベートでのやりとりを、英会話活動として取り入れ10分ほど練習する。テーマは「School lunch is better than lunch box.」で、賛成・反対の意見を言う練習をする。第3次もこの英会話活動を行うことで、関連表現をインプットする。第4次ではディベートのルールを設定し（2分勝負・審査員が勝敗を決める）、4人グループで2人ずつディベートを行い、勝敗を決める。ディベートでのやりとりが十分にできた後に、自分の意見を書く活動を行う。英語を書くことに苦手意識のある生徒も「まとまりのある文章」を書くことができるよう、3段落構成の型を使うことで、全員が書けるようにする。

ディベートができるようになったら、テーマを「制服はあったほうがよい」「紙の辞書と電子辞書、どちらがいいか」に変えて行う。生徒が思わず「言いたくなる」テーマを設定することで、主体的に表現する力を引き出すことができる。

5 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価規準【評価方法】 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
1	1 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 後置修飾を使って、「～している○ ○」「～される○○」という文を作 てみよう。」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「木の下に座っている男の子」「学校で使われる机」など、イラストを見せながらペアに英語で説明していく活動を行う。 ・文法用ワークシートを使って練習問題を解き、後置修飾についてノートにまとめる。 ・音読ワークシート（別紙資料①）を使いながら、本文の内容をペアで音読練習をしながら確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 知っているロボットについて、後置修飾を使って説明する文をノートに書く。 I know the robots called _____. </div>	○	○	○	○	知思①ペアに、後置修飾を使って情報を伝えようとしている。【観察】 技①文法ワークシートに最後まで取り組んでいる。【ワークシート・確認】 主①音読練習に主体的に取り組もうとしている。【観察】 思①後置修飾を使って、自分が知っているロボットの説明を書く。【確認】

2	3 4	<p>相手の意見に賛同する表現“I know what you mean.”を、ディベートで使ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「給食か弁当か」をテーマに教師が用意した会話文（4文）を練習し、“I know what you mean.”を使えるようにする。 ・「何歳ですか」「どこにありますか」などの疑問文を復習した後、“Do you know?”をつけて間接疑問文を作る活動をペアで行う。 ・文法用ワークシートを使って練習問題を解き、間接疑問文についてノートにまとめる。 ・音読ワークシートを使いながら、本文の内容をペアで音読練習をする。 <p>「いつ～/どこに～/何を～ 知っていますか」という間接疑問文は”Do you know（疑問詞＋主語＋動詞）？”の語順なる。</p>	○ ○ ◎ ○	○ ○	<p>思主①ペアと一緒に役割を交代しながら主体的に練習しようとしている。 【観察】</p> <p>知思①ペアに、間接疑問文を使って情報を伝えようとしている。【観察】</p> <p>技①文法ワークシートを用意。終わったら教師が確認する。【ワークシート】</p> <p>主①音読練習に主体的に取り組もうとしている。 【観察】</p> <p>知①本単元の文法のまとめをノートに書く。【確認】</p>
3	5 6	<p>Deepa、Kota、Saki、Alex、だれの意見に賛成ですか。理由も添えて意見文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読ワークシートを使いながら、本文の内容をペアで音読練習をする。 ・教科書本文を利用して、自分の意見に置き換えてノートに書く。 ・ノートに書いた意見をペアに発表し、グループでも発表する。 <p>賛成の場合は I agree with _____. I think _____. 反対の場合は I disagree with _____. I don't think _____. と自分の立場を明確にして意見文を書く。</p>	◎	○ ○	<p>主①音読練習に熱心に取り組もうとしている。【観察】</p> <p>技①自分の意見を書くことができる。【ワークシート】</p> <p>主②自分の意見をペアやグループに発表しようとしている。 【観察】</p>

4	7 8	<p>・与えられたテーマ（「お昼ご飯は給食がいいか弁当がいいか」に対して、自分の意見を3段落構成で表現することができる。</p> <p>・4人グループの中で、給食派と弁当派に別れ、1組が2分のディベートを行う。もう1組は、どちらの意見が説得力があったか審査する。</p> <p>・自分の意見を、3段落構成でまとめる。</p> <p>3段落構成で意見文を書く。 I agree(disagree).○ I have two reasons. First, _____. Second, _____. So, _____.</p>		◎	◎	<p>主②テーマについて自分の意見を言おうとしている</p> <p>思②ディベートで表現した意見を基に、30字以上でまとまりのある文章が書ける。</p> <p>【観察・英作文ワークシート (別紙資料②)】</p>